

登録コード	E7133200	開講年度	2026				
授業科目	異文化間教育基礎演習					担当教員	徳井 厚子
英文授業名	Basic Seminar in Intercultural Education I					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・3時限	対象学生	2年生
講義室	教育N204講義室	授業形態	演習	遠隔授業科目		備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	26Eカリ, 25Eカリ, 24Eカリ, 23Eカリ, 22Eカリ, 21Eカリ, 20Eカリ						
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				異文化間教育の専門家に求められる基礎的な知識を身につけることができる		
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				異文化間教育の教育活動を支え、実現する上で必要な知識を身につける		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	異文化間コミュニケーション学を中心に、関連する国際教育について概要を学ぶ。						
(5)授業計画	第1回 日本における異文化間教育研究 第2回 外国人の子どもの教育政策 第3回 外国人の子どもの不就学 第4回 地域における外国人の子どもの支援 第5回 地域における学習支援の連携 第6回 異文化間教育と日本語教育 第7回 学校の多文化共生 第8回 学校の多文化共生の取り組み 第9回 外国籍児童生徒の支援 第10回 外国籍児童とアイデンティティ 第11回 子どもの異文化適応の理論 第12回 子どもの異文化適応と事例 第13回 バイリンガリズムと言語形成 第14回 バイリンガリズムと社会 第15回 まとめ 授業アンケート実施						
(6)成績評価の方法	・活動参加度30% 小テスト・課題・レポート70% （ふりかえりシートをレポートに加味する） ・学外の研修で当授業の主旨に一致するものに参加した場合は参加度に加味する。ただし授業出席に置き換えることはしない。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可						
(7)成績評価の基準	(i) 問題の設定が適切であり, (ii) その問題の背景を説明できており, (iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており, (iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており, (v) その上で自分の見解を提示できており, かつ, 教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「合格水準にある」。						
(8)事前事後学習の内容	事前学習では、指定がない場合は教科書や授業で指定した参考図書の該当箇所を読み、概要を把握、質問を用意すること。事後学習では、示された課題を中心に行うこと。						
(9)履修上の注意	・現代教育コース、異文化間教育ユニット2年生の必修授業であるが、どのコースの学生でも歓迎する。						
(10)質問、相談への対応及び連絡先	他の学生のためにもなるのでできるだけ授業時間内に質問を受ける。 個人的相談はメールなどでアポイントの上面談に応じる。 tokuias@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	特定の教科書は用いない						
【参考文献】	佐藤郡衛『異文化間教育』明石書店ほか						